

# 暮らし見つめて

# 共生に きたい

「丸めたら容器にたたきつけるように入れて。ダンナの顔を思い浮かべて『えいっ』と」

四月、さいたま市浦和区の学習塾で、みそ作り教室が開かれた。NPO法人「子育て応援隊むぎぐみ」が開く「おみその学校」。学習机を並べた作業台を約二十人の母親が囲む。教えるのは子育てが一段落した先輩主婦たち。生徒は子育て中の

「子育て応援隊むぎぐみ」

山浦和子さん



みそ作りをしながら若い母親たちと話す山浦和子さん(中)さいたま市浦和区で

# 悩みや不満消す「井戸端」に

若い母親たちだ。

みそ作りは家庭のちょっとした不満解消の場でもある。「みんな似たようなことで悩んでいると分かり、心が軽くなった」。会話を通し、初対面同士の母親たちがつながっていく。

子育ての悩みは今も昔も変わらない。地域が子育てを支えた時代は、母親たちが集まれる「井戸端」があった。今はない。それが虐待や不登校などの背景に潜む。

「むぎぐみ」副理事長の山浦和子(中)は、子育てで深刻に悩んだ経験があるわけではない。ただ、「学校も地域も年齢

## Ⓣ 子育て中の母親を支える

も違う母親たちと、何の気兼ねもしがらみもなく、おしゃべりができたことがとても良かった」という思いを持ち続けた。

「『そういう場所があった方がいいね』ってポツリと言われて気づいた」。ある母親の一言が、山浦や母親仲間を決意させる。「一人で悩むと深刻になりがちだが、大体の悩みは皆が通る道。『大丈夫』と安心させてあげたい」。井戸端「づくりが動きだした。

子どもを同じ学習塾に通わせていた母親を中心に約十人が開いた、不登校を題材にした映画の自

主上映会を機に、二〇〇一年春に「むぎぐみ」は発足した。

同塾を経営する「花まる学習会」代表の高浜正伸が、教室の提供を申し出てくれた。

「ひきこもりや家庭内暴力など子どものトラブルの大半は母親の孤立が関係する。母親の努力で解決する単純な問題ではなく、父親や地域とのきずなが欠かせない」と、後に理事長を引き受ける高浜は言う。

母親の子育てを支えるには、父親や地域を巻き込むことが不可欠だ。今こそ子育て支援や親子体験イベントなど幅広

## 先輩ママに経験学ぶ

い活動で、年間のべ千五百人が参加する。だが当初は、その思いがすんなり伝わったわけではない。

田植えなどを体験する「田んぼの学校」は、完全にボランティアだ。だが、参加費を払ったからサービスを受けて当たり前という態度の父親から、山浦は「対応が気に入らない」と怒鳴られた。

親子で力を合わせることを目的に開いた農業体験で、あせ道でたばこを吸う父親に「どうぞ一緒に田んぼに入ってあげて」と声をかけると「うるさい」と煙たがられた。

「良かれと思っても、そうは受け取ってもらえないことがある。世の中にはい

ろんな人がいることも分かった」。今はイベント前に説明会を開く。

一方で、ある父親から「田んぼのザリガニ捕りを機に子どもとの関係が変わり、会話が増えた」と言われた。子どもの不登校に悩んでいた母親も「皆さんと話して、子どもとの付き合い方を変えたら学校に行くようになった」と涙を流した。

「むぎぐみ」という名前は「踏まれるほどに強根を張る麦のような子に」との思いから付けたが、山浦たちも地域にしっかりと根を張ったようだ。敬称略

(井上圭子)